

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

1 Apr, 2009

IN THE HEADLINES



ルーマニア

IMFとEUにより主導される200億ユーロの国際支援パッケージに関する合意が形成された。この大規模な(GDPの15%にも上る)資金調達、IMFとの2年間のスタンドバイ取極を基に行なわれる。このプログラムは、財政政策の強化(赤字幅を2009年にはGDPの5.1%、2011年には3%に制限することを含む)および、銀行の十分な資本強化と短期的な流動性供給圧力に耐えることを目的としている。ルーマニアに進出している9つの外資系銀行の親会社も今回の協議に参加しており、引き続き子会社に対して十分な資金供給を行なうと約束した。このパッケージが、少なくとも今の信用力を改善することにはなるだろう。



トルコ

与党公正発展党(AKP)は先週日曜日に全国で行なわれた地方選にて快勝したが、彼らが受けた39%の投票は、2004年と2007年の国政選挙での43%、47%と比べれば後退したといえるだろう。これは、世界的な危機への当局の対応に対する不満の表れかもしれない。実質GDPは2008年第4四半期には前年同期比6.2%縮小しており、2009年初における工業生産と輸出の急減は、今年の強い景気後退を示唆している。加えて失業率は2007年の10.6%から2008年には13.6%まで高まった。経済のリスクは依然として高いが、政府は新規のIMFプログラムに合意することは躊躇している。



アルゼンチン

フェルナンデス・デ・キルチネル大統領は、中間議会選挙を10月25日から早めて6月28日にするための承認を勝ち取った。前倒しの日程に対する政府の言い分は、経済が危機的な状況にある中、選挙活動によって無駄に経過している時間はないというものである。しかし、ダメージコントロールも同じくらい重要だった可能性もあり、というのは、キルチネル家は急速に悪化する経済と農家との衝突による影響を最小化したいという意向があるためである。早期の選挙はペロニスタ党のFV派閥や他の同盟党からの潜在的な離脱を抑制し、分断されている野党に協力体制を結成する時間を与えない。それでも政府の敗北はあるだろうし、大統領の権限に圧力がかかることだろう。



サウジアラビア

アブドゥラー王は異母兄弟であるナーフ・ビン・アブドラアジズ王子を第二副首相に任命し、スルタン皇太子に次ぐ王位継承者とした。スルタン皇太子の健康状態が良好ではないため、ナーフ王子一現在内務大臣一が、次期皇太子としての呼び声が高い。この新しい任命は政治的な不透明感をいくらか解消するものの、ナーフ王子は74歳であり(アブダラ国王は84歳)、若い世代への権力の譲渡についてはまだなされていない。よって、外交面での政策の継続性は期待できるだろうが、それと同時に現在の指導部による保守主義が社会的、経済的な改革を制限することが見込まれよう。

ALSO IMPORTANT...



ベトナム

第1四半期のGDPは前年同期比で3.1%まで減速し、世界的にみれば相対的に問題ない水準であるものの、目標値および2000年以降は平均8%だったものと比べると大きく下回る。製造業が縮小する中、サービス業が主要な下支えをした。需要サイドでは、輸出は壊滅状態となった一方で、輸入も急落した。先月発表されたUSD10億ドルの財政刺激策は、金融緩和と共に経済にいくらか弾みをつけるだろうが、今年は3-4%程度以上の成長は見込むべきではない。直接投資(第1四半期にはUSD14.4億ドルまで下がった)も含めた対外的な資金調達が制限され、脆弱な銀行システムの中、更なる(財政・金融)緩和策の余地は限られていると言えよう。



グアテマラ

IMFは18ヶ月に亘る、スタンドバイ取極への合意を発表した。なお、これは予防的措置との位置づけであり、実際の資金の引出は行なわない意向。このプログラムはグアテマラの対外流動性ポジションを支える上で重要であり、というのは世銀や米州開発銀行を含む他の国際機関からのUSD10億ドルの資金調達と、当該国に対する全般的な信用を下支えすることになるからである。このプログラムは相対的な強固な財政・金融政策の枠組みがあることを反映している一方で、当該国経済が、輸出の落ち込み、海外労働者からの送金の減少および相対的に大きい対外資金調達必要額に対して脆弱であることを示している。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



カザフスタン

カザフスタンは制度的な政治リスクが顕著でビジネス環境は弱く、これらは共に広く流布している既得権益を支持する権威主義的な政治体制が反映されたものに他ならない。2000-07における力強い経済成長は、高い原油価格と、海外からの信用供与に支えられたものだった。しかし、世界的な信用収縮と、それに続いた当該国が依存する原油価格の落ち込みにより経済は大きく打撃を受け、その脆弱性をさらけ出した。銀行セクターは危機を免れるためにその大部分が国有化されたが、破産リスクは高まり、企業は高い通貨リスクに晒され外貨建て債務の借り換えが困難になっている。



ナイジェリア

根深い民族的、宗教的および地方の分裂が統治を困難にし、ウマル・ヤラドゥア大統領—2007年の、不正があったとされた大統領選挙によって選出された—は健康問題があるとされている。地方での不穏な動き、とりわけニジェールデルタ地帯においては犯罪組織が年間の輸出収入の20%にも上る国家歳入を奪っているとされている。相当な債務削減が行なわれたにも関わらず、原油価格の低迷を反映して(炭化水素関連資源が輸出の90%を占める)経済データは悪化している。その上、ビジネス環境は悪く、官僚主義、規制と汚職が民間セクターの活動を害するものとして上げられている。

IN BRIEF

メキシコ

G20サミットに出席しているカルデロン大統領がメキシコはIMFの指揮のフレキシブルクレジットラインのプログラムを実施する用意があるかもしれないとした。

ハンガリー

ソブリン格付が、S&PによるものがBBBへ、Moody'sによるものがBaa1に格下げされ、いずれも見通しについては引き続きネガティブであるとされた。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.